

(宝達志水町地域公共交通協議会 事務局作成)

と き 令和8年6月22日(月)13:30~15:00

ところ さくらドーム21 2F 視聴覚室

令和 8 年度第 1 回宝達志水町地域公共交通協議会 議事要旨

1 開会 司会(事務局:宝達志水町企画情報課 南谷課長)により定刻どおり開会した。

2 委員委嘱

宝達志水町地域公共交通協議会設置要綱第 5 条第 2 項に基づき、委員の任期は 1 年とする。委嘱状の席上配布により交付にかえ、委員の紹介についても委員名簿によりご紹介を割愛した。

当日の欠席者は、大村委員、河邊委員、北口委員の 3 名、代理出席者は JR 西日本飯田委員の代理で橘(たちばな)様が出席した。

協議会の会長について、委員の互選となっていることから、本年度より「参事」(昨年は総務課長として会長代理)となった金田参事が会長に就任した。

3 金田会長 あいさつ

宝達志水町 参事の金田でございます。本日はお忙しい中、令和8年度第 1 回地域公共交通会議の出席いただき、誠にありがとうございます。

本協議会は、令和 2 年度に設立以来、皆様のご審議とご協力を賜りながら、令和 3 年度に地域公共交通計画を策定し、その後着実に施策を推進してまいりました。特に令和 4 年 10 月からは地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスのルート再編やデマンドタクシーの料金改定、南北シャトル便の新設など多様な施策を実行し、町民の皆様が安心して利用できる交通環境の整備に努めてまいりました。

本年度は現行の地域公共交通計画が本年度までとなっておりますことから、更なる持続可能なまちづくりを目指し、次期 5 ヶ年の地域公共交通計画を策定すべく、国からの補助を活用しながら、本町の計画をブラッシュアップしていくため、現状把握と分析、住民・利用者・交通事業者の意識調査を行うことで課題を抽出し、今後の交通施策について検討していく必要があります。

その一環として、AI デマンド交通等、新たな技術やサービスの導入の具現化を図っていかなければなりません。こうした革新的な取り組みが、地域全体の利便性向上に繋がるものと確信しております。

本日は多くの議題を用意しております。それぞれの案件について、忌憚のないご意見、ご提案を賜りますようお願いいたします。長時間となりますが有意義な議論となることを願ひまして、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

協議会の副会長は、宝達志水町地域公共交通協議会設置要綱第 6 条第 4 項に基づき、公立小松大学の高山純一教授が就任した。会議後、委員の意見を踏まえて総評をいただく。
(以後、金田会長が議長となり進行)

金田会長:

それでは、審議に入ります。まず報告案件、事務局からの報告を求めます。

4 報告案件 (事務局 松本 より 資料1～3説明)

(1)報告第 1 号 資料1 デマンドタクシー事業について

<質問・質疑 なし>

(2)報告第 2 号 コミュニティバス事業について

<質問・質疑 なし>

(3)報告第 3 号 南北シャトル便事業について

<質問・質疑 なし>

金田会長:

南北シャトル便については、昨年度もこの会議で利用者が少ない、空気を運んでいるとの意見があった。見直しの必要性を新しい提案の中でまた協議していきたい。

5 議事案件 (事務局 松本 より 資料4～6説明)

(1)議案第 1 号 資料4 令和7年度決算の承認について

※事前配布の決算資料に記載ミスがあり、朱書きした資料を席上配布した。(決算内容に変更なし)
報告に続いて監査報告。

吉井委員:(監査担当)

令和 8 年 6 月 5 日 地域公共交通協議会の令和 7 年度収支決算について銀行預金通帳、関係帳簿、及び領収書を照査したところ適正に処理されていることをご報告いたします。

<発言・質疑なし>

委員より発言・質疑がないことから、金田会長から「採決」の表明があり、
「異議なし」との発言により決議された。

(2)議案第 2 号 資料5 令和8年度予算の承認について

<発言・質疑なし>

委員より発言・質疑がないことから、金田会長から「採決」の表明があり、
「異議なし」との発言により決議された。

(3)議案第 3 号 資料6 令和 9 年度地域内フィーダー系統確保維持期国庫補助金の申請について

<質疑>

小林委員:(石川運輸支局)

申請書の後の 別紙 2. (1)事業の目標 の中の(2)町内公共交通事業 の記載で、何%と書かれており、【参考】欄の収支率が書かれているが、デマンドでは収支率(収入を経費で割ったもの)となるが、この記載では、分子が総収入ー補助金で、分母が総収入となっており、これはどのような考えか。

事務局 松本:

これまでの申請書の数年分を踏襲して記載しているものです。ご意見を頂戴しながら、訂正すべき箇所は見直して参ります。

先般、(運輸局の)説明会に参加したおり、事業評価が厳しくなり、令和 10 年度補助から PDCA を回して毎年評価をやっていくとのご説明もございましたので、それら評価の手法においても修正していきたいと考えておりますので、引き続きご指導方お願いします。

小林委員:

他のところについては利用者数や公的負担額という形で何が書いてあるか理解できる記載となっているが、指摘の部分については計算式を見ても収支率にはなっていないと考えてお聞きした。

実際に計画に記載すべきことは、補助金実施要領で定まっており、運行系統の利用者の数、収支費用に関わる国または地方公共団体の支出の額、その他の定量的な目標、効果およびその評価手法、測定方法などが挙げられる。利用者の数は(1)、負担額は(3)であり、収支の部分では、収入のことは書かれてあるが、支出が表れていないと思うので今一応確認いただきたい。

事務局 松本:

この計画の内容は、今も国と調整中であり、今後の修正すべき箇所につきましては、事務局に一任いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

金田会長:

それでは事務局で、修正すべき箇所は修正するという事で、他にご質問ございませんか。

他に発言はなく、金田会長から議案第3号について「採決」の表明があり、「異議なし」との発言により決議された。

議事案件としては以上で終了。

6 その他

金田会長：

続いて、「その他 地域公共交通調査事業(地域公共交通計画策定)について」、事務局から説明を求めます。

事務局 南谷課長：

資料 7 地域公共交通調査事業(地域公共交通計画策定)について 説明

金田会長：

次期に向けての交通計画のその前段階となる調査事業について説明がありました。
皆さんからご意見を伺いたいと思います。

松浦委員：

アンケートについて、前は全世帯に3部送付したようだが、今回は世帯に1部配布を予定しているのか。配布時期はいつ頃を予定しているか。
また、高齢者の免許返納は年間何件程度あるのか。

事務局 南谷：

アンケートについては、現在のところ未定ではありますが、今回は3部以下になることを見込んで準備を進めております。実施時期は7月を見込み、回収・集計作業を含めて9月には終わることを考えております。

藤井委員：

高齢者の免許返納者については、例年、町予算として約50件分を見込んでいます。ただし、今年は増加傾向にあるため、例年を上回る可能性も考えられます。

事務局 松本：

令和5年度36人、令和6年度52人、令和7年度は41人となっております。

今年度は 5 月末で既に 13 人となっており、増加傾向にあります。

金田会長：

他ご質問いかがでしょうか？

吉田委員：

地域公共交通では、町内の交通確保という観点が大切であると思うが、デマンドタクシーの実績を見ても、羽咋市への移動需要が多いと思われる。

羽咋市の地域公共交通協議会においても計画改定をする中で、宝達志水町と意見交換しているということも伺っているため、今回の計画改定にあたり、AI オンデマンド交通や公共ライドシェア等の導入可能性の検討について、羽咋市との連携といったことは考えているか。

事務局 南谷：

本町としては、羽咋病院と石野町への乗り入れにとどまっているのが実態です。

バス停やデマンドタクシーの乗降地をさらに拡充することは現時点では難しいものと考えておりますが、まずはアンケート調査によるニーズの把握から取り組み、広域的な観点についても検討していきたいと考えています。

吉田委員：

県としても、複数市町の連携であれば、アドバイスや支援なども考えられると思っているので、相談いただきたい。

金田会長：

それでは最後に高山先生から総評お願いしたいと思います。

高山副会長：

令和 7 年国勢調査の速報値によると宝達志水町の人口は約 11,000 人であり、平成 17 年の合併当初から約 4,000 人の減となっている。これかも地方の人口が増えることは無く、人口の維持や地域活性化などに取り組んでいくことが行政としての役割である。そういった意味では地域公共交通というのは住民の足を守る役割があるもので、行政としては、しっかりと支えていかなければならない。最近では、国の予算や補助制度も拡充されてきたが、道路予算等と比較すると非常に少ないため、地方から国に対して要望して欲しい。

宝達志水町の地域公共交通について概算すると、コミュニティバスは 1 回 1 人あたり約 6,000 円、

デマンドタクシーは約 3,000 円である。他方で南北シャトルは約 15,000 円と多額の予算をかけて町民の足を守っている。このまま続けていくのかなど、皆さんで知恵を出して考えていく必要がある。

公共ライドシェアなども案の一つだが、ドライバーの確保や事業者の管理、行政の予算確保など、前例に倣っても課題が出てくる場合もある。

デマンドタクシーの利用が多いというのは、電話するだけで安価な料金で行きたいところに行けるとのことだと思われるが、料金を上げると利用者は減少することも予想される。現在の料金体系で利用者が増加する方策を考えて実施してはどうかと思う。

コミュニティバスが無料かつ便数も多いのに利用者が少ないというのは見直しを図る必要がある。なぜこれだけの利用にとどまっているか等を分析することは次期計画を策定するうえでも一番大切なところである。現状の課題を整理したうえで、町民・来町者などの利用者の足をどのように確保するかというところまで考えた方がよい。

金田会長：

大変貴重なご意見ありがとうございました。

皆さまには長時間におよびご審議いただき誠にありがとうございました。

本日のご意見をもとに令和 9 年度からの地域公共交通計画についてアンケート調査を含め取りまとめ、新たな交通システムの方方向性を検討していきたいと思っております。

これをもちまして令和 8 年度第 1 回宝達志水町地域公共交通協議会を閉会いたします。